

矢作川流域圏懇談会 川部会 WG

平成27年度の活動

(第5回全体会議資料より)

平成 27 年度の川部会の活動進捗報告

1. 川部会の目標とテーマ

川部会の 3 ヶ年（平成 25～27 年度）の活動テーマを以下に示す。

（3 ヶ年の目標）

- 矢作川本川では、現況把握・評価（カルテ作成）の取り組みを実践しながら、将来のあるべき姿（絵）を描く
- 家下川では、実施中の活動の取り組み効果を確認し、将来のあるべき姿（絵）を描くとともに、他の場所や他の支川への展開方法を検討
- 地先の課題では、関係機関調整の場の提供と（仮）専門家リストの作成・試行的運用、個別課題の情報共有、解決の方向性検討の進展

<テーマ>

<解決手法>

テーマ1：
生き物の棲みやすい
川づくり（上下流問題）

本川モデル：課題と解決の方向性の検討、個別課題の取り組み

家下川モデル：課題と解決の方向性の検討、個別課題の取り組み

テーマ2：地先の課題

地先モデル：（仮）専門家リストの作成、個別課題の取り組み

2. 今年度の活動実績

活動内容	日時	場所
第 25 回WG （豊田）21 名参加	5 月 29 日（金） 18:00-21:00	・豊田市職員会館 2階第1会議室
第 26 回WG （豊田）27 名参加	6 月 29 日（月） 10:00-12:30	・豊田市職員会館 2階第1会議室
第 27 回WG （長野）17 名参加	8 月 6 日（木） 12:30-16:00	・中央構造線博物館 ・小渋ダム
第 28 回WG （豊田）20 名参加	9 月 29 日（火） 13:30-15:30	・豊田市職員会館 2階第1会議室
第 29 回WG （豊田）21 名参加	10 月 13 日（火） 10:00-12:00	・豊田市職員会館 2階第1会議室
第 30 回WG （岡崎）19 名参加	11 月 11 日（木） 13:30-16:00	・矢作古川分派施設 ・矢作古川頭首工
第 31 回WG （豊田）20 名参加	12 月 18 日（金） 13:30-16:00	・豊田市職員会館 2階第1会議室

※参加人数は事務局含む

3. 各テーマの活動進捗

テーマ	内容	活動日程・概要	進捗
生き物の棲みやすい川づくり (上下流問題)	本川モデル ・課題と解決の方向性の検討 ・個別課題の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第25回 WG ⇒今年度の活動方針整理 ・ 第27回 WG ⇒小渋ダムの見学 ・ 第28回 WG ⇒加茂川合流点段差改善のための魚道の設置案検討、総合土砂管理検討委員会の検討状況の共有 ・ 第30回 WG ⇒矢作古川分派施設と矢作古川頭首工の見学 ・ 第31回 WG ⇒白浜地区モニタリング調査結果報告、豊田市矢作川河川環境活性化プランについての情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・小渋ダムの土砂バイパスの視察と総合土砂管理検討の情報共有を行った。 ・加茂川の段差改善を目的として、自然石による棚田式魚道を設置することとなった。 ・他支川における生き物の移動阻害に対する活動事例として、矢作古川分派施設と矢作古川頭首工の見学を行った。 ・大同大学により、以下の現地調査が実施された。 <ul style="list-style-type: none"> ①白浜工区の経緯に関する整理着手 ②白浜工区での地形状況のモニタリング ③縦断水位観測 ④ワンド周辺の植生モニタリング ④湧水調査 ・豊田市矢作川河川環境活性化プランについて情報共有した。
生き物の棲みやすい川づくり (上下流問題)	家下川モデル ・課題と解決の方向性の検討 ・個別課題の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第25回 WG ⇒今年度の活動方針、各施設の管理団体を整理 ・ 第26回 WG、第29回 WG ⇒上郷排水機場の改修設計内容について意見交換 ・ 第29回 WG ⇒承水溝・長池（ひょうたん池）等の段差解消について意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の管理団体を整理し、段差の解消について検討を実施した。家下川湛水防除事業に伴う段差解消は困難であったことから、具体的な対策案を再度検討中である。 ・家下川湛水防除事業（上郷2期地区）の概略設計の検討状況について意見交換を行うことにより、遊水池内の水深確保のための浚渫や越冬魚の待避計画が計画に盛り込まれた。 ・長池の水量確保を目的として、風車式揚水機を活用する方法が提案された。
地先の課題	地先モデル ・(仮)専門家リストの作成 ・個別課題の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第25回 WG ⇒今年度の活動方針整理 ・ 第26回 WG ⇒活動団体リストの整理状況報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動団体リストはインターネットによる収集が概ね完了した。

3.1 本川モデル

(1) 今年度の活動より分かったこと

① 生き物の移動阻害（本支川合流箇所）について

- ・加茂川の段差改善を目的として、木杭を用いた魚道を昨年度まで検討されていたが、既存施設の構造上、設置が難しい。
- ・今回新たに自然石を用いた棚田式魚道の設置が提案された。構造は土砂堆積や遡上障害に留意した構造とする。今年度中にWGメンバー及び国土交通省により施工したい。



図 1 加茂川合流点段差の状況

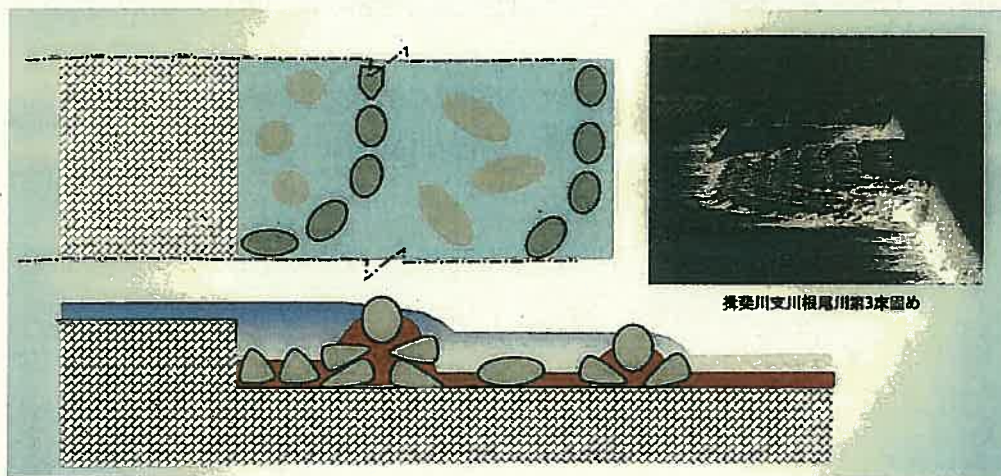


図 2 仮設魚道（自然石を用いた棚田式魚道）の設置案

② 微地形の多様性（良い瀬・淵、ワンド）について

- ・白浜工区では、大同大学によるモニタリングが今年も継続的に実施されている。

H27 年度の検討成果

白浜工区の経緯に関する整理

白浜工区に関する検討状況の経緯や変遷状況を整理

白浜工区のヤナギの成長と定着について

ヤナギの成長状況把握、水際線の整理により列状群落の生育起源（定着状況）を把握

白浜工区の地形と土砂の変化について

測量および土砂粒度分析等による地形と土砂の変化状況を把握

ワンド上流の湧水について

湧水の有無、水源、湧水量の把握

河道掘削後モニタリングのための縦断水位連続観測

縦断的な水位の把握

- ・豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会の検討状況について報告を受けた。

③ 河床のアーマコート化について

・先進事例として小渋ダムを見学し、洪水時の調節方法や土砂バイパストンネルの運用について知見を深めた。

・「矢作川水系総合土砂管理計画策定に向けて（技術的な課題と検討の進め方）平成 27 年 5 月」について総合土砂管理計画の策定までの手順や、現在河川環境 WG で取り組まれている内容等の報告を受けた。

(2) 今年度の活動方針（案）に対する進捗状況

【活動方針】

- ① WGメンバーで加茂川合流点・家下川合流点における移動阻害の改善状況のモニタリングに取り組む。

《進捗状況》

加茂川において試行的に自然石による棚田式魚道を今年度中に設置予定。設置後の状況をモニタリングし、今後の対応を模索する予定である。

【活動方針】

- ② 微地形の多様性（瀬淵・ワンドなど）について、WGメンバーで現地調査や関係者との意見交換、豊田市河川環境活性化プラン検討委員会との連携を進め、(仮)保全エリアマップを作成する。

《進捗状況》

大同大学による現地調査が今年度も継続中である。

矢作川研究所より豊田市河川環境活性化プラン検討委員会における検討状況について報告を受けた。

【活動方針】

- ③ 低水路拡幅後の河道の応答状況を把握するため、定期的な目視による観測に加え、河床形状の測量を行うことにより、白浜工区をモニタリングする。

《進捗状況》

大同大学により現地調査が継続中である。

【活動方針】

- ④ 総合土砂管理の知見を深めるためにWGメンバーで先進地域を視察し、総合土砂管理委員会との情報共有を継続する。

《進捗状況》

小渋ダムを視察するとともに、総合土砂管理における現在の検討状況について情報を共有した。

(3) 今後の課題

○白浜工区等のモニタリングの継続的な実施

○加茂川については魚道設置後のモニタリング

○保全エリアマップの作成にあたっての作業分担、マップで対象とする機能の抽出・検討

3.2 家下川モデル

(1) 今年度の活動より分かったこと

① 生き物の移動阻害について

- ・愛知県豊田加茂農林水産事務所を招へいし、家下川湛水防除事業（上郷2期地区）の概略設計の検討状況について意見交換を行った。
- ・家下川周辺の段差については、その構造や水量、管理者が異なる等の関係上、解消は困難であることが分かった。
- ・排水機場の施工は愛知県豊田加茂農林水産事務所であるが、実際の運用（管理者）は豊田市河川課となる。段差解消に関する検討については、水量の確保をはじめ、豊田市を交えた検討が必要である。
- ・各施設の管理団体を整理し、段差解消についての最良案を模索中である。

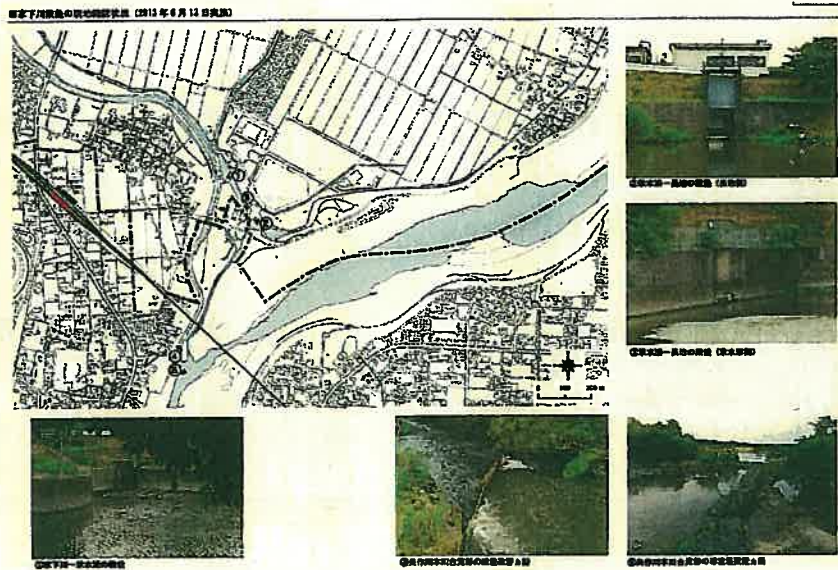


図 3 家下川における段差の状況

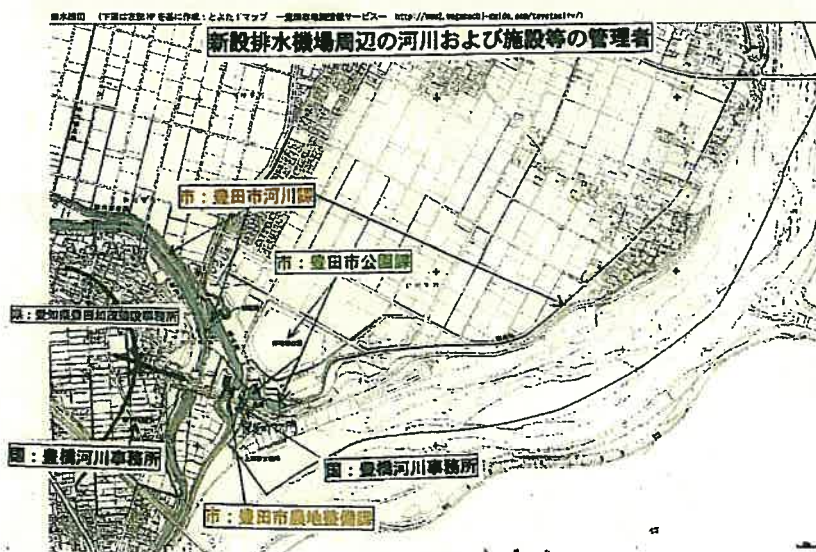


図 4 排水機場周辺の管理者の状況

② 生き物の棲み家の不足について

・家下川湛水防除事業（上郷2期地区）の概略設計の検討状況についての意見交換により、改修工事計画の中に遊水池内の水深確保のための浚渫や越冬魚の待避計画が盛り込まれることとなった。

【遊水池内の浚渫】

一部浚渫するとともに、部分的に30～40cmの深みをつくる。

【越冬魚の待避計画】

浚渫時に取り残された魚を締切りの外に移動→柳川瀬排水機場前面の待避場前面に移動→次年度に柳川瀬排水機場水槽内へ移動

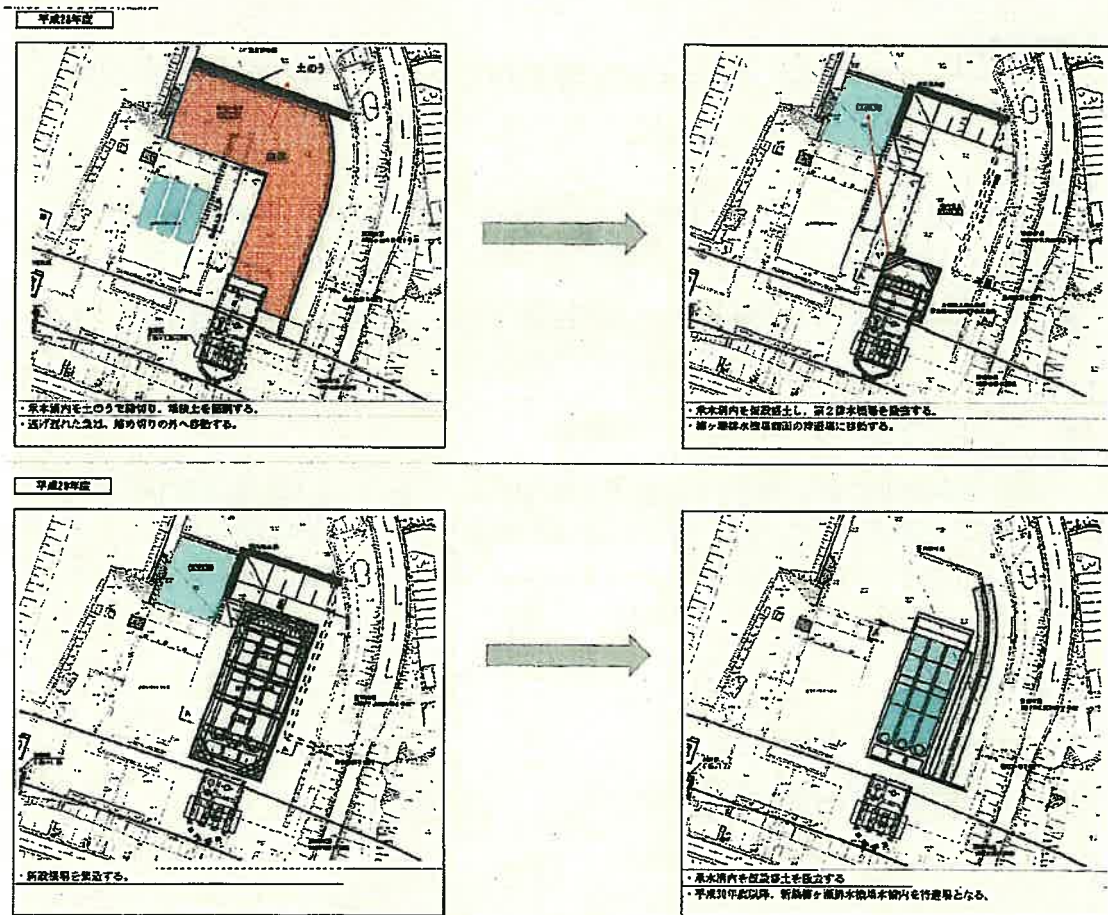


図5 新設上郷柳川瀬排水機場ができるまでの越冬魚の待避計画（案）

③ ひょうたん池（長池）の水量不足について

・風車式の揚水機を用いた水量確保についての提案があった。

④ 他支川での活動展開について

・生き物の移動阻害に関する他支川の活動状況を確認するため、矢作古川分派施設（施工中）や矢作古川頭首工における魚道設置予定箇所を見学・議論し情報共有した。

(2) 今年度の活動方針（案）に対する進捗状況

【活動方針案】

- ① 生き物の移動阻害について、管理者と連携して、排水機場の改修に伴う段差解消方法の検討に取り組む。（優先課題①）

《進捗状況》

今回計画されている工事における段差解消は困難であることが分かった。今後は水量の確保をはじめ、管理者である豊田市を交えた解決方法の検討を進めていく。

【活動方針】

- ② 生き物の棲みかの不足について、承水溝の浚渫方法に対する提案を実施する。（優先課題②）

《進捗状況》

排水機場の工事に伴う承水溝内の浚渫は、遊水池内について一部浚渫し、部分的に深みをつくる計画となった。

【活動方針】

- ③ 水量不足について、水源の情報収集・現地調査を実施し、新たな情報が得られた段階で、ひょうたん池（長池）の水量確保の可能性の検討を進める。

《進捗状況》

風車式の揚水機を用いた水量確保についての提案があった。今後も検討を進めていく。

【活動方針】

- ④ 矢作川の他支川での活動展開を検討する。

《進捗状況》

生き物の移動阻害に関する他支川の活動状況を確認するため、矢作古川分派施設（施工中）や矢作古川頭首工における魚道設置予定箇所を見学・議論し情報共有した。

(3) 今後の課題

○関係する自治体を交えた検討の実施

○家下川湛水防除事業の最終的な計画の確認

3.3 地先モデル

(1) 今年度の活動より分かったこと

① モデル運営上の課題について

・活動団体リストはインターネットによる収集が概ね完了した。今後は、流域圏全体で取りまとめる方向とし、山部会の「山村再生担い手づくり事例集」に統合して整理したい。

表 1 活動団体リスト案 (一部抜粋)

参加者	ホームページURL	参加実績	行政ホームページ
豊後河川事務所	http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/	矢作川流域農業協会事務局	
Bio de Bio アドバンス研究会	http://bio-de-bio.com/	矢作川流域農業協会 矢作川流域園芸協会	
伊勢・三河湾流域ネット ワーク	http://www.ise-kuwa.net/	矢作川流域園芸協会	
農矢作森林塾	http://chiroki.com/	矢作川流域園芸協会	
乙川を美しくする会	http://ecchi345.net/echo/members/members_info.php?cid=600000	矢作川流域園芸協会	
上矢作ダム開閉連絡協議会		矢作川流域園芸協会	
上久作町自治連合会		矢作川流域園芸協会	
加茂川を美しくする会		矢作川流域園芸協会	
中部森林開発研究会	http://www.atsen.co.jp/chubu/kyouken.html	矢作川流域園芸協会	
鳥羽ホタル・保存会	http://www.toriho.com/kyouen/index.html	矢作川流域園芸協会	
豊田市自然環境協会		矢作川流域園芸協会	
豊田市長五郎自治会		矢作川流域園芸協会	
西三河野鳥の会	http://birdclub.net/	矢作川流域園芸協会	
早川をよみがえらせる会	http://ecchi345.net/echo/members/members_info.php?cid=600001	矢作川流域園芸協会	
三河湾沖北市民館	http://www.345.net/echo/01/members/members_info.php?cid=600001	矢作川流域園芸協会	
水と緑を守る会・岡崎	http://ecchi345.net/echo/members/members_info.php?cid=600001	矢作川流域園芸協会	
森を再生する会	http://www.katsuh.com/kyouen/01/index.htm	矢作川流域園芸協会	
室下川を美しくする会	http://chamipac.com/kyouen/index.html	矢作川流域園芸協会	
矢作川「川会館」	http://yabakigakka.com/kyouen/	矢作川流域園芸協会 豊田市矢作川河川環境活性化 プラン検討委員会	
矢作川学校	http://www.yabakigakka.com/kyouen/	矢作川流域園芸協会	
矢作川環境教育研究会	http://www.yabakigakka.com/kyouen/	矢作川流域園芸協会	
矢作川源流の森ねば	http://www.facebook.com/yabakigakka2	矢作川流域園芸協会	
矢作川森林塾	http://chiroki.com/echo/members/members_info.php?cid=600001	矢作川流域園芸協会	
矢作川水鳥森林ボランティア 協議会	http://yamoriyuu.com/	矢作川流域園芸協会	
矢作川水鳥館	http://www.yabakigakka.com/	矢作川流域園芸協会	
矢作川治水史研究会		矢作川流域園芸協会	
矢作川天然アユ調査会	http://ayu-chuwa.net/	矢作川流域園芸協会	
矢作川をきれいにする会		矢作川流域園芸協会	
矢作水辺フォレストランド 協議会	http://chiroki.com/kyouen/yabakigakka/forestland/index.html	矢作川流域園芸協会	
矢作古川を美しくする会		矢作川流域園芸協会	
沼羽村森林組合	http://nobuhara.net/	矢作川流域園芸協会	
重南森林組合	http://h-nai.com/	矢作川流域園芸協会	
豊田森林組合	http://www.yabakigakka.com/	矢作川流域園芸協会	
岡崎森林組合	http://okazaki.com/	矢作川流域園芸協会	

(2) 今年度の活動方針（案）に対する進捗状況

【活動方針】

- ① 協力いただける活動団体へのヒアリング（公開ヒアリング（仮称）の実施）を継続しながら、個別課題の解決の方向性を検討する。

《進捗状況》

山部会の「山村再生担い手づくり事例集」において、川部会会員も参加する中で流域圏全体の活動団体に対しとりまとめを実施している。

【活動方針】

- ② ヒアリング・アンケート等を活用して、活動団体MAPを作成する。

《進捗状況》

インターネットにより情報収集した活動団体リストが作成された。

【活動方針】

- ③ WGメンバーからの情報提供により、（仮）専門家リストの充実・改良を図り、まずはWGメンバーで共有する。

《進捗状況》

（仮）専門家リストは昨年度概ね作成されており、今後定期的に更新していく方向性としている。

(3) 今後の課題

- （仮）専門家リストの更新

矢作川流域圏懇談会通信

H27 川部会編 vol. 1



発行日：平成 27 年 6 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 25 回川部会WGを開催しました！

5月29日（金曜日）に第25回川部会WGが豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、昨年度の活動の報告と今年度の活動の進め方について、意見交換を行いました。

日 時：平成 27 年 5 月 29 日（金）18:00～21:00
会議場所：豊田市職員会館 2F 第1会議室
参加者：21名（事務局含む）



◆主な意見交換内容

1 本日の話し合いで決まったこと

■本川モデルの活動方針について

- 国、県、市の計画の整合性を再度確認するとともに、既存の情報を踏まえた（仮）保全エリアマップを作成していきます。
- 市、県の矢作川に関する検討委員会（豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会、矢作川上流域圏流域委員会など）の検討内容について情報共有し、連携を進めていきます。

■家下川モデルの活動方針について

- ①越冬場の機能②魚が行き来できる（ネットワーク）の2条件が可能となる理想のモデルを検討していきます。①については、家下川リバーキーパーズによるアイデアを含めて提案していきます。
- 昨年度実施の設計成果による工事位置や工事内容等について説明いただき、望ましい形について関係管理団体と意見交換していきます。

■地先モデルの活動方針について

- 今後も現地に赴き、活動団体へのヒアリングを継続します。
- （仮）専門家リストの改良を進め、活動団体マップを作成します。

■WGの進め方及び山川海の流域連携について

- 他地域への展開モデルとなる具体的な形を示すための検討を進めていきます。
- 理想となるモデルを示すために必要となる調査や効果評価、マップ化のプロセス整理やまとめ方について検討していきます。
- 土砂問題については、総合土砂管理検討委員会及び別途開催される技術検討WG等の検討状況を勘案しながら検討を進めていきます。
- 山川海流域連携の『土砂』担当者は次回以降に検討します。

■今後のスケジュールについて

- 当面のスケジュールは、6月家下川モデル、7月本川モデル、8月地先モデルとします。各WGでは、その他モデルの進捗状況についても適宜確認していきます。
- 6月家下川モデルは、6月22日の平日週に開催予定とし、管理関係団体と意見交換を行いながら、望ましい形について意見交換します。
- 7月本川モデルは、7月18日（土）（予定）とし、先進地域である小渋ダムを視察します。
- 8月地先モデルは、8月24日（月）午後（予定）とし、（仮）専門家リスト案等について意見交換します。





●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 〆回答)

(1) 本川モデルについて

- ・国交省では環境管理計画を持っているのか。我々はその計画に見合うものを作ろうとしているのか。(本守)
- ・豊田市の矢作川河川環境活性化プランと国交省の河川環境管理計画との位置づけはどうなっているのか。(小澤)
 - 空間管理計画というものは従前決めている。一方で、高水敷を最も利用する地元の方たちの意見も重要。忌憚のない意見をいただくことと並行して整備計画の勉強会も継続していきたい。(事務局)
- ・計画上の整合性がどうなっているのか確認したい。我々が保全エリアマップを作成する際に、もともとの情報(豊田市の計画や治水上の計画等)がどのようになっているのかを踏まえて議論しなければいけない。(鷺見)
- ・関係する委員会として愛知県で矢作川上流域流域委員会が6月1日に開催される。本川モデルと共通の話題も議論されるようなので、県に説明を依頼するなどして、担当と連携していった方が良いと思う。(内田)

(2) 家下川モデルについて

- ・今年の秋～冬に現在魚の越冬地となっている排水機場を改修することになっているため、そのタイミングで中の生き物を移動したいと考えている。家下川リバーキーパーズとしては、工事時に設置される矢板の上流側に池を作成し、魚を移動させる案を提案していきたいと考えている。現在は、どこに話を通したら良いか考えているところである。(阿部)
- ・以前の県説明では、実施設計ができ上がった段階で段差の話について相談させていただけるという話であった。どういった工事内容になったのかにより、現状で対処できる問題なのかの判断が変わると思う。(本守)
 - 現在の設計状況を確認し、意見交換していきたい。一方で、①越冬場の機能を持つ②魚が行き来できる(ネットワーク)、この2点を担保できるモデルを形として提示し、ドキュメント化することが重要だ。(鷺見)
- ・(排水機場)周辺の水の流れが分からない(小澤)
 - 小澤さんの質問に関しては勉強しておく。(山本)

(3) 地先モデルについて

- ・現状の方法では2～3団体/年と活動団体へのヒアリング数が少ないのではないかと。関係する活動団体に集まっていたら一斉にヒアリングするなど、方法を変えて積極的に実施するべきではないか。(本守)
- ・(仮)活動団体リストはできたが、連絡方法の整理がまだできていない。できているリストは提供する。(山本)
 - 各活動団体の代表者や連絡先については、市のHP等から閲覧が可能である。(伊奈)
 - 活動団体マップの公表についてはWGで議論していきたい。また、課題の抽出用としてもマップ化はしたい。(鷺見)
 - 川との距離感、分布状況を把握するためにもマップは必要だと思う。(内田)

(4) WGの進め方及び山川海の流域連携について

- ・モデルとして挙げた以上は、各モデルについて形として示す、あるいは方向性を示す必要がある。(光岡)
 - 必要な調査や効果評価、目指す姿のマップ化のプロセスや誰がまとめていくのかについて決めていかなければいけない。家下川モデルは時間が無いので、早めに決めておきたい。(鷺見)
- ・山川海流域連携の土砂担当者を早急に決めることが必要である。(内田)
- ・現状の矢作川水系総合土砂管理検討委員会では、ダム上下流の土砂収支の話しかされていない。下流の方では地形の話を含めて検討されているのか、技術的にはどういった話になっているのか。(鷺見)
 - 今年度の委員会では別途専門家による技術検討WG(ダム装置に関するWG、河道・環境WG)を立ち上げて、細かい話をやっていく予定である。また、関係者(事業者、管理者、利害関係者等)を集めた意見交換の場も持つていく。昨年度委員会の検討結果は、6月前半にHPにて掲載する予定である。(事務局)
- ・東幡豆のような土砂の運搬活動を継続的に実施できれば、市民団体等で健康診断ができるのではないかと。(松井)

(5) 振り返り

よかったと思うこと：土砂の事も少しはできたことは前進できたと思う。/人数が少なくて発言ができた。私の課題が明確になった。/議論すべきことが改めて確認できたので、少しずつ形として残していくような方向性が見えたこと。

よくなかったと思うこと：会議時間が延びすぎた。/スケジュール案が必要だった。/モデル地区の具体化を明確にしたい。

今後取り組んでいきたい活動など：川の健康診断をやろう(森下方式：川のHの条件)。/モデルを形として明らかにし、他の地域に波及する方向で活動できると良いと思います。

今後の流域懇談会の予定

■第26回川部会WG 日時：平成27年6月22日の週(平日開催) ※詳細日時はMLにて決定します。
内容：家下川モデルに関する管理関係団体との意見交換など



◆お問合せ◆

矢作川流域懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域懇談会メーリングリスト(yahagigawa@l1net.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H27 川部会編 vol.2



発行日：平成27年7月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第26回川部会WGを開催しました！

6月29日（月曜日）に第26回川部会WGが豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、上郷排水機場の改修設計内容について愛知県豊田加茂農林水産事務所より説明いただき、家下川の魚の移動阻害及び棲みかの保全について意見交換を行いました。

日時：平成27年6月29日（月）10:00～12:30
会議場所：豊田市職員会館2F 第1会議室
参加者：27名（事務局含む）



◆主な意見交換内容

1 本日の話し合いでわかったこと、決まったこと



■上郷柳川瀬排水機場の改修工事について

- 上郷柳川瀬排水機場の改修工事内容についてわかりやすく説明いただき、工事と併せてどういった対応が可能か検討することができました。
- 場内は一部掘削する予定であり、工事完成時の河床敷高は現状の河床高よりも低くなるため、排水機場周囲の水深は現状より深くなる予定です。
- 改修工事時の魚の退避方法や段差の解消方法等については豊田市河川課及び農地整備課、公園課も交えて対応を検討していく必要があります。



■山川海の流域連携について

- 土砂担当については、瀧口先生に受けていただけないか打診します。
- 9月25～26日に東幡豆のトンボロ干潟で海部会、山部会合同の見学会が開催される予定です。ぜひ川部会の皆さんも参加ください。



■今後のスケジュールについて

- 次回WGの小浜ダム見学は、当初の7月18日（土）から日程が変更となります。日程は、7月29日（水）、8月5日（水）、8月6日（木）のいずれかを予定とし、MLにて調整します。
- 8月24（月）に予定している地先モデルでの訪問団体は、本守さんに候補団体を選定いただき、調整後にお知らせします。
- 8月以降のWGは、9月本川モデル、10月家下川モデルを予定しています。
- 9月本川モデルは、9月29日（火）13:30～15:30（予定）とし、総合土砂管理委員会の最新情報の紹介と意見交換を行います。
- 10月家下川モデルは、10月13日（火）10:00～12:00（予定）とし、管理関係団体と意見交換を行いながら、改修工事時の魚の退避方法や段差の解消方法について意見交換します。

2 意見交換



- 出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 上郷柳川瀬排水機場の改修工事について

(・意見 ▶回答)

上郷柳川瀬排水機場の改修工事について愛知県豊田加茂農林水産事務所より説明があり、その後、意見交換を行いました。

- ・今回の工事では、承水溝の深さを変えるなど承水溝と長池との段差に関する部分は手を入れないということがわかった。(光岡)
- 工事のなかで一度仮設盛土をした後に長池（ひょうたん池）からの樋門周辺の土はまた取り除く。取り除く際に、もし対応可能な良い提案があれば、お手伝いできると思っている。(鈴木)

- ・第1号樋門のゲートを何らかの方法で冬の間だけでも閉めて水位を嵩上げしておけば魚は越冬できるのではないか。(山本)
 - 以前一度実施したが、冬季の乾田化に支障が出るためこの方法はとれないということだった。(小澤)
- ・承水溝内の魚のおそらく9割以上が周辺より深い2つのポンプ機の吸水槽の中に入って冬を越していると思われる。こういった魚についてはどうお考えか。(阿部)
 - 初めて伺った内容なので、現状では具体的な案は無いが、壊す前に今稼働している大きい排水機場の吸水槽の中の魚を捕まえて、新しい吸水槽へ退避するしか方法はないのではないかと考える。(鈴木)
- ・工事の際に中の魚を人の手で全部救い出して緊急避難をどこかにさせることは可能か。(阿部)
 - 場所にもよるが不可能では無い。(鈴木)
- ・コンクリート工事現場よりも離れた場所に、魚の退避場所を仮に作れないか。(阿部)
 - 仮設盛土は作業中なので一番初めに作ってほしい。(阿部)
 - 吸水槽の魚をどうするか、その後、使っていない排水機場を壊す際にどうするか、2回あるということだ。最大限配慮してほしい。(小澤)
- ・退避場所をひょうたん池とするのはどうか。(穴井)
 - ひょうたん池と承水溝は繋がっていないため、魚の種類が違うので難しい。(小澤)
- ・例えば、承水溝内を浚渫して欲しい場合は、豊田市の河川課へ依頼する話になるのか。(本守)
 - おそらくそうだと考えられる。ただ、この工事の中でやれるのか、別途やるのか、魚に対して誰がどうするのか、最後は豊田市の責任になるのか、このあたりは話し合いだと思う。(小澤)
- ・矢板上流の承水溝内に穴を掘ることは可能か。(光岡)
 - さらに仮設が必要になり、条件が増えていくので難しい。(鈴木)
- ・長池と承水溝の間に20cm~40cm水位差があり、さらにそれを繋ぐ樋門数が高くなっている。今回の工事を機に何らかの対応ができないか。関連して段差解消につながる工事は可能か。(鷲見)
 - 水路部分については豊田市の管理区間となるため、難しいのではないかと。(本守)
- ・承水溝内の浚渫は設置側としては必要とは思ってられないか。(本守)
 - 仮設で入らなければいけない場所であれば同時に実施することもできるが、そのためだけにというのは難しい。(鈴木)
- ・ポンプ場の上流側の端には矢板が入るので、矢板の先の部分を工事の掘削深さまで擦り付けるよう掘り込みをつくってもらうことはできないか。何らかの方法で擦り付ける作業を実施できないだろうか。(鷲見)
 - 矢板は圧入機で自走して打っていくため、クレーンを入れる作業がない。この作業では掘ることができない。(鈴木)
 - ポンプ場の吸水口に対して現状の河床高はだいぶ高いので、この工事自体でも吸水口までは掘削が必要だとおもう。(事務局)
- ・このまま放っておくとどんどん生き物がいなくなってしまう。ポンプ場ができたから魚がいなくなったといわれるのも不本意だ。なんとか少しでも考えていただきたい。(阿部)
- ・新しい排水機場の横に一度盛り土をして撤去して現状の池に戻す計画となっているが、その際に多めに掘ることは可能か。(内田)
 - 一部掘削する予定なので、現況河床よりは深い水深が確保できる。(鈴木)
- ・魚の一時避難を含めて、豊田市の河川課と協議していただきたい。(内田)
- ・岸から届く範囲で魚の隠れ家を掘削するのは将来的に可能なのかを豊田市に考えてもらえれば良いと思う。(小澤)
 - 今回の工事でもバックホウで届く範囲であれば、掘ることは可能である。(鈴木)
 - 豊田市の河川課がいないのは残念だ。今後は豊田市河川課、農地整備課、公園課ともお話しできるとありがたい。(内田)

今後の流域懇談会の予定



■第27回川部会 WG

日時：平成27年7月29日(水)、8月5日(水)、8月6日(木)のいずれか

内容：小渋ダムの視察

※詳細日時はMLにて決定します。



◆お問合せ◆

矢作川流域懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H27 川部会編 vol.3



発行日：平成 27 年 8 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 27 回川部会WGを開催しました！

8 月 6 日（木曜日）に第 27 回川部会WGを開催し、天竜川上流にある中央構造線博物館と小渋ダム土砂バイパストンネルを見学しました。

日時：平成 27 年 8 月 6 日（木）12:30~16:00

場所：長野県大鹿村 中央構造線博物館
上伊那郡中川村 小渋ダム

参加者：17 名（事務局含む）



◆主な活動内容

1 中央構造線博物館で河本学会員のお話をききました



■中央構造線について

- 構造線は断層の一種であり、長い間に同じ方向にずれ続けた結果、違う岩が接している。
- 中央構造線の両側100mくらいは、断層で砕けた岩が露出しているため、川によって侵食されている。この様子は宇宙からみた衛星画像でよくわかる。
- この構造線は、関東平野の下から群馬県の下仁田、諏訪湖付近の岡谷、岡谷から茅野まで別の断層によって食い違い、茅野から大鹿を過って静岡県の水窪、愛知県豊橋、三河湾、伊勢、和歌山、徳島、四国、九州を横断しているスレ目である。



■愛知県を通る中央構造線と代表的な地質について

- 愛知県では、豊川が中央構造線を掘っている。
- 三河湾、伊勢湾は今から2万年前くらいは氷期だったため陸地であり、このときはおそらく豊川は谷を作った壁になっていたと考えられる。
- 構造線の北側（内帯）には花崗岩が分布しており、長野県の上松の寝覚ノ床に始まり、岐阜県の中津川の苗木、土岐の鬼岩を経て、愛知県の猿投山、三重県の御在所の辺りまで点々と分布している。名古屋の北から岡崎の辺りはずっと花崗岩ということになるが、この辺りは埋まって見えない。
- また、矢作川流域では、段戸の辺りや三ヶ根山、豊川流域の本宮山、幡豆の海岸堆積岩が変成を受けてでき上がった花崗岩（珪質片麻岩）といった具合にパッチ状に分布している。
- 新条の桜淵では、外帯の緑色片岩がみられる。これは低温高圧で作られたもので、三河湾の下をくぐり、三重県では夫婦岩として出現し、これと同じものである。
- 豊川沿いでは、中央構造線の内帯と外帯が場所によって交互にみられる。

■質問と説明

（・意見 > 回答）

- ・伊豆半島の衝突と富士山は関係あるか。
 > 伊豆半島の衝突が200万年前で、富士山が数10万年前なので、衝突した場所にたまたまできたものである。
- ・天竜川と豊川については、下に構造線があるため伏流水・地下水という点で繋がっているように認識したが、そうなると、矢作川と豊川は地下では繋がっていないと考えればよいのか。
 > そこまでの詳細は不明である。例えば大千瀬川の水が池場峠の下でどうなっているか、ということは把握していない。
- ・大井川沿いの寸又峡ではシルトで真っ白だが、中央構造線のスレが関係しているか、ただ単に土質がシルトということか。
 > これは、直接関係がなく、小渋川でも洪水時は真っ黒になり、濁りが収まってくると白っぽくなっていく。大井川も小渋川も、この水に含まれている細かい粒子がみえるという、同じ理由ではないだろうか。
- ・花崗岩は、神島・篠島まで続くのか。また、佐久島はどうか。
 > 神島は中央構造線の南側で、篠島は花崗岩、佐久島は堆積岩が変成したものである。



■小沢ダム操作室～本体内：概要と洪水調節について

- 小沢ダムは、昭和44年に完成し、矢作ダムと同じアーチ式コンクリートダムである。
- 洪水調節は、梅雨期と台風期に分けて計画しており、最大1,500tの水が来たときに、1,000tを貯めこんで500tを放流して下流の被害を軽減させている。
- ダム内のプライムラインは夏冬で通常4cm程度動く



■質問と説明

(・意見 > 回答)

- ・クレストゲート、下の口は開けたことがあるか。
 - クレストゲートを開けて水を流したことはないが、点検などで動かすことはあっても、非常用ゲートを活用したことはない。*矢作ダムは、東海豪雨の時に開けている(事務局補足)。
 - 下の口は、梅雨期の湛留容量の確保水位と制限水位の差が1.4mのため、梅雨期はほとんどゲートが開けっ放しの状態となる。



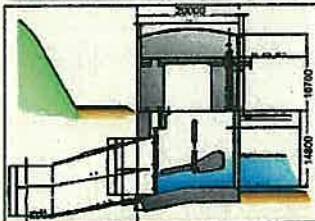
■小沢ダム土砂バイパストンネル吐口：トンネルの構造と工事・観測法について

- 利水ダムガイドラインに沿って、上の中部電力の堰堤から毎秒0.72tで発電をしながら流して一年中発電をしている。
- アカザなどの魚が寝るように狭いところで水深30cmを維持している。
- 土砂バイパストンネルは、勾配1/50、断面高8m、底面はレベル。
- 護岸工事の構造は通常の重力式擁壁と同じである。山側の護岸は今年度中に工事。
- 吐口には、水が逆流しないように重力式擁壁を作る。流速は最大14m/sと速くなるため、底張り(インパート)は50ニュートンという非常に高強度のコンクリート。
- 土砂把握のための観測方法が課題となっている。礫・砂についてプレートマイクロホンで波形をみながら測定する最新の方法を検討している。



■小沢ダムバイパス管理用トンネル出口～呑口：構造と工事実施状況について

- トンネル掘削は、4年で4km。石張り型擁壁、流木ハネ工、ゲート(2枚を稼働)は完成しているが、分波堰切欠、管理建屋等はこれからの作業となる。
- 流木ハネ工の間隔は1m程度、これより小さいものを流下させる。呑口は、流量に応じた水位に合わせて、定率の流量が流れるような構造となっている。
- 来年の出水期からの運用を目指している。ゲート開閉の運用方法等はこれから検討。



■ふりかえり

- 土砂バイパストンネルの施工事例のダムは、興味の尽きない地形・地質の流域にあって、施設と河川との関係がパノラマ的に把握できました。単一に近い地質と地形構造の上に人工林が卓越する生態系が展開する矢作川上流と異なる点がいろいろありました。事例をみた結果の整理にやや時間がかかりますが、かえってそのような比較もできて、目指す「土砂」のテーマに係る検討に大いに参考になりました。
- 大変勉強になりました。今後の活動に活かしたいと思います。

今後の流域懇談会の予定



■第28回川部会WG(木川モデル)

日時：平成27年9月29日(火) 13:00~15:30 場所：豊田市職員会館2階第1会議室
 内容：生き物の移動阻害について(加茂川合流点)、総合土砂管理検討の概要報告、
 山川海の流域連携について、次回以降の会議・議題案について(各モデル)



◆お問合せ◆

矢作川流域懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
 TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H27 川部会編 vol.4



発行日：平成 27 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 28 回川部会WGを開催しました！

9月29日(火曜日)に第28回川部会WGが豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、加茂川合流点段差改善のための魚道の設置案について意見交換を行いました。また、総合土砂管理検討委員会の検討状況について報告を受けました。

日 時：平成 27 年 9 月 29 日 (火) 13:30~15:30
会議場所：豊田市職員会館 2F 第1会議室
参加者：20名(事務局含む)



◆主な意見交換内容

1 本日の話し合いでわかったこと、決まったこと



■加茂川合流点の段差改善について

- 昨年度まで検討されていた木杭を用いた魚道は、既存施設の構造上、設置が難しいことから、今回新たに自然石を用いた棚田式魚道の設置が提案されました。
- 自然石を用いた棚田式魚道は、下記のような利点があります。
 - ①自然石を用いることにより、自然にスリット部ができる。
 - ②開口部を180度と広く設定できる。
- 下記に示すように、土砂堆積や遡上障害に留意した構造とする予定です。
 - ①プール水深を浅く(20cm程度)し、土砂が堆積しにくい構造とする。
 - ②遡上障害低減のため、上流部の隔壁設置高を水門敷高より少し高い位置に設定する。
- 魚の行動習性等に詳しい専門家のご意見を伺いながら、できれば今年度中にWGメンバーと国土交通省の共同で設置したいと考えています。
- 施工日程が確定しましたら、MLにて周知いたします。ぜひご参加ください。

■総合土砂管理検討の概要報告について

- 豊橋河川事務所HPにて公開されている「矢作川水系総合土砂管理計画策定に向けて(技術的な課題と検討の進め方)平成27年5月」について、報告がありました。
- 報告では、総合土砂管理計画の策定までの手順や、現在河川環境WGで取り組まれている内容等が説明されました。これを受けて、計画策定までに解決されるべき課題、策定後に解決される課題等について意見交換を行いました。
- 今後も総合土砂管理検討の状況については、定期的に情報共有を行い、意見交換を実施していく予定です。

■今後のスケジュールについて

- 今後は、10月家下川モデル、11月地先モデル、12月本川モデルを予定しています。
- 10月家下川モデルは、10月13日(火)10:00~12:00(予定)とし、湛水防除事業(上郷排水機場)の設計状況について、関係団体と意見交換します。
- 11月地先モデルは、11月11日(水)午後(予定)とし、矢作古川分派施設、矢作古川頭首工等を見学します。
- 12月本川モデルは、12月18日(金)午後(予定)とし、白浜地区のモニタリング状況報告、豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会の内容の紹介と意見交換を行います。



2 意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(●意見 ▶回答)

(1) 加茂川合流点の段差改善について

- 今回、新たに自然石を用いた欄干式魚道の設置が事務局より提案されました。この提案内容について、意見交換を行いました。
- 今回の設置箇所は、ものすごく水が少ない。実際に魚が上る時に180度展開して薄く流すようにして、それでいいのか。ある程度真ん中を落として中央に絞ったほうがいいのか。(本守)
 - ▶ これまでの研究結果では、真ん中の池の敷高は若干高くして、わざと両側に水が流れるようにしている。流量が少ないときには、両側からのぼれるような形が良いという結果が出ている。(事務局)
 - あまり大それた事を考えずにつくってみて、壊れたらまたつくればいいのかと思う。(内田)
 - ▶ 壊れたら直すと考えた方が良く思う。これが成功するとは限らない。(山本)
 - 石を固定するためにモルタルを下につめてしまうと、魚が身を隠しながらのぼることができない。出水期に石がとんでしまう事を承知で、魚が隠られる程度の石を置くのが良いのではないかと。(内田)
 - ▶ 石の使い方を、逆三角の石を配置し、コンクリートの間に流速の小さいところができるように据えるとよいと思うが、石が取れやすくなるので石の据え方には工夫が必要である。(本守)
 - これは誰が作るのか。(山本)
 - ▶ 出張所と希望される皆さんで、今年度中に施工することを考えている。施工時期にはお声をおかけしたい。(事務局)
 - ▶ 庄内川でもみんなやめた。どうやって積んだら良いかみんな議論してからやらないといけない。(本守)
 - ▶ 施工時には、魚のことをよく知っている人が少なくとも一人はほしいと思う。(内田)
 - ▶ 専門家については、矢作川研究所に相談する。(事務局)

(2) 総合土砂管理検討の概要報告

- 事務局より、現在の総合土砂管理計画の検討状況が報告され、意見交換を行いました。
- 技術的検討課題が多くリスト化されているが、技術的検討課題をクリアするステージと計画の策定の前後関係を教えてほしい。どの時点で計画とモニタリングと修正がグルグル回る状況になるのか。(鷲見)
 - ▶ 技術的検討課題が全て解決してから計画をつくるのではなく、並行で進めていく。環境影響の閾値の設定がある程度目処が立ったところで、管理計画を作り、その後随時見直しという形(順応的管理:アダプティブマネジメント)を考えている。(事務局)
 - 治水と利水という話があって、下流に土砂を流してほしいという話もある。こういった性質の土砂をどれくらい下流側から必要だと言っているのかについては、この中で検討しないのか。この検討の中で、どれ位の土砂量が必要で流すことができる、ということも数値的に突き詰めていくのか。(光岡)
 - ▶ 難しい課題だが、その課題を解決する可能性として土砂供給実験による環境影響の閾値設定を考えている。現状で数値的に突き詰めるまでの技術は無いので、実験をしながら対応を行っていくことを考えている。(事務局)
 - 課題としては、どれだけ流せるのかという話と、流すとどうなるのかが見えていない話と、どれだけ土砂が欲しいという話の3つの課題が相互に関係している。それを我々は検討委員会との間で課題と情報のやり取りをしないとイケないのではないかと。(鷲見)
 - 策定の段階では、利害関係者も含めた現場から、生き物なら生き物の立場でみたときの土砂はこれだけ欲しいというような話はどうに検討されるのか。(鷲見)
 - ▶ 環境影響の閾値検討等の内容について二次元シミュレーションを実施し、ご意見を伺うことを考えている。(事務局)
 - 自然科学的にはこういう土砂を供給したらこうなるという結果が出たとしても、それを受けて人間社会では何が望ましい姿なのかという意見は分かれる可能性がある。そういったところの議論をしなくてはイケない事は想定しておくべきだと思う。(内田)

(3) 振り返り

- よかったと思うこと:** 総合土砂管理の現状がよくわかった。/土砂に向けての最新の考え方を聞くことができ、大変興味深かった。当方の理解不足が解消できた(土砂検討委員会の立ち位置)。/矢作川のダム域だけでなく、矢作川流域全体の検討事項について理解することができた。/総合土砂管理の概要を確認できたこと。
- よくなかったと思うこと:** 総合土砂管理についてもっと話したかった。/総合土砂管理について関係者を含めた検討が必要である。
- 今後取り組んでいきたい活動など:** 総合土砂管理の詳しいことを知る。/矢作古川頭首工。/土砂のシミュレーションをやりたい。/実践的な取り組みについては成果・結果を分かり次第是非教えてほしい。
- 質問など:** 総合土砂管理計画検討では砂防や治山担当と協議しているか。/県の参加を促してほしい。

今後の流域懇話会の予定



■第29回川部会WG

日時:平成27年10月13日(火)10:00~12:00(予定)

内容:湛水防除事業(上郷排水機場)の設計状況についての説明、意見交換



◆お問合せ◆

矢作川流域懇話会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域懇話会メーリングリスト(yahagigawa@ilnet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H27 川部会編 vol.5



発行日：平成 27 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 29 回川部会WGを開催しました！

10月13日(火)に第29回川部会WG(家下川モデル)が豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、新設排水機場(上郷排水機場)の設計状況、承水溝・長池(ひょうたん池)等の段差解消について意見交換を行いました。

日 時：平成 27 年 10 月 13 日 (火) 10:00~12:00
会議場所：豊田市職員会館 2F 第1会議室
参加者：21名(事務局含む)



◆主な会議内容

1. 本日の話し合いでわかったこと

■新設排水機場(上郷排水機場)の設計状況についての説明

●新設排水機場の設計について、第26回川部会WG(6月開催)以降、承水溝の設計・仮設計画に変更が生じたので、以下の2点の変更点をご報告します。

(1) 浚渫可能高の変更

以前のWGでは、浚渫可能高さ(既設上郷柳川瀬排水機場設置当時の承水溝の高さ)について説明しましたが、承水溝の高さと同等の機場呑口の高さを実測したところ、①出来高凹面との間に差異があったこと②遊水池がフラットではなかったことがわかったため、浚渫可能高を変更します。

(2) 仮設計画の変更(新設機場築造仮設・既設機場撤去仮設)

以前のWGでは、築造時前面の土留は「自立式構造」を予定していたが、今回は「切梁式構造」とし、築造時に前面を盛土することで盛土撤去時の承水溝掘削範囲を広げました。

●冬場の魚の待避場の確保について、以下の2点の検証を行いました。

(1) 完成後の容量検証

施設容量について、現況では約980m³[上郷第2排水機場(既設)+上郷柳川瀬排水機場(既設)+承水溝(浚渫前)]となっています。完成後は約1,850m³[上郷柳川瀬排水機場(新設)+承水溝(浚渫後)]となり、現況よりも容量は多く確保できると考えられます。

(2) 施工時の容量検証(H28~H29の上郷第2排水機場が撤去され、新機場の下部工ができるまで)

施工時の容量について、現況では約180m³[上郷第2排水機場(既設)]となっています。仮設時は約190m³[上郷柳川瀬排水機場(既設)前面部(承水溝)の掘削]と、現況よりも容量は多く確保できると考えられます。

●新設上郷柳川瀬排水機場ができるまでの冬場の魚の待避計画について、平成28年度は浚渫時に取り残された魚を締切りの外に移動させた後、柳川瀬排水機場前面の待避場に移動させる計画です。また、平成29年度は柳川瀬排水機場前面から新設柳川瀬排水機場水槽内へ移動させる計画となっています。

■承水溝・長池(ひょうたん池)等の段差の解消について

●平成26年9月開催の第21回川部会WG(家下川モデル)段差解消、水源確保の参考資料を用いて、長池と承水溝のつながりについて再度検討したいと思います。前回の資料に記載した宗貞川樋門(矢作川本提の樋門)は遊水池第2樋門であることを訂正します(本資料のp3図中に手書きで訂正記載)。

■今後のスケジュールについて

●今後は、11月地先モデル、12月本川モデルを予定しています。

☆11月地先モデルは、11月11日(水)午後とし、矢作古川分派施設、矢作古川頭首工等を見学します。

☆12月本川モデルは、12月18日(金)午後(予定)とし、白浜地区のモニタリング状況報告、豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会の内容の紹介と意見交換を行います。

2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(●意見 〆回答)

(1) 新設排水機場(上郷排水機場)の設計状況について

豊田加茂農林水産事務所より、新設排水機場の設計について報告がありました。この内容について、意見交換を行いました。

- 新たな排水機場の給水槽を魚の待避場とする場合、コンクリートを打ってどのくらい経過しているのか。アルカリ水の問題はないか。(本守)
 - 1年間くらい経ってから待避場とする。(清水)
- 1年も放置できるのか。それなら、あらかじめ新設排水機場に水を入れておき、アルカリ水を十分洗い流してから水を入れ替え、放流してほしい。それでなければ、アルカリ水を取り除くことはできない。(本守)
 - 強度を発生させるため、コンクリートを打ち終えてから水を入れるまで2ヶ月空ける予定だ。(國島)
- 水を止めるなら、最大どの程度止められるか。(鈴木)
 - これまで2ヶ月程度としていたが、アルカリ水が流れ出す時間を考慮して、1年間水を入れない計画としたい。(清水)
- アルカリ水は取り込んで中和するようにする。その方法は、矢作川では前から行われていることだ。(本守)
- 浚渫は護岸に影響がない範囲までしかできない。前回の報告では16.10mまでであれば護岸は倒れないと判断していたが、その後の検証では、その高さでは護岸が倒れてしまうことがわかった。(清水)
 - 護岸が倒れないように両サイドをふとんかごで押さえることはできないか。前面を掘らなくても、全体の1/3あるいは半分程度深い部分ができればよい。(本守)
- 前回の議論では、冬場は特に水深が欲しいといったが、全体を均一に掘るという意味ではなかった。全面をすべて浚渫しようとするから、このような無理が生じるわけだ。(光岡)
- 魚にとってはどれくらいの深さが必要なのか。(鈴木)
 - 一般的に水深は体高の3倍と言われるが、最低1mはほしい。部分的には1~1.5mあるとよい。(阿部)
- 排水機場の建設は土地改良法に基づくものであり、土地改良法は改正されて、環境との調和という条文が新たに加わった。そのため、本事業は環境との調和に配慮する必要がある。(内田)
 - 新設排水機場について事業費は確定していない。全体の試算は出ているが、環境への配慮によって大きな乖離が出る場合は、関係省庁より指摘が出ると思われる。この深みを設ける浚渫においても、できる範囲でということになる。(鈴木)
- 平成28年2月か3月に議論の場を設けたい。前回の川部会WGの時に豊田市の河川課とも議論してほしいと頼んだが実現されていないようだ。次回は是非議論の結果を教えてください。(内田)

(2) 承水溝・長池(ひょうたん池)等の段差の解消について

事務局より、前年度からつづく段差の解消について再度説明がありました。この内容について意見交換を行いました。

- 段差を解消する案(長池の水質改善の目的も含む)として、まず簡単な井戸を掘って風車式の揚水機を使って長池から承水溝に水を流す。余分な水を設置した魚道に流せば魚も上れる。これは管理費が要らないことが一番の利点であるが、豊田市では年間平均風速が1m程度しかなく、風車が回らない可能性がある。(事務局)
 - それは自然にとっては適切な手段ではないが、その方法も考慮に入れる必要がある。(阿部)
- 宗貞川の北に流れる用水だが、公園内で宗貞川に接近している場所で、地下に穴をあけて宗貞川に流すことはできないか。(内田)
 - 宗貞川より低いいためポンプアップする必要があるし、水量が期待できない。(本守)
- 用水に堰や水車を設けてはどうか。(事務局)
 - 堰上げした時に止水域が柳川瀬公園内にとどまるなら問題ないと思う。(本守)
 - 水車を回す流量が確保できないだろう。(阿部)
- 樋門の横の土手に穴をあける矢作ダムの発想を考慮してもらえないか。(本守)
 - 道路の土手と同じ考えでよいかという判断も必要になる。(事務局)
- 現地をみて改めて考えたいと思う。(内田)



(3) 今後のスケジュールについて

- 11月11日 第30回川部会WG(地先モデル)
 - 矢作古川分派施設の見学では、矢作古川頭自工に大量発生しているカワヒバリガイの状況も見ていただきたいと思う。(内田)
- 12月18日 第31回川部会WG(本川モデル)
 - 溝口先生にもう一度ご指導いただきたい。(本守)

今後の流域懇談会の予定



■第29回川部会WG

日時:平成27年11月11日(水)13:30~15:30

内容:地先モデル:矢作古川分派施設、矢作古川頭自工等見学



◆お問合せ◆

矢作川流域懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森 係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域懇談会メーリングリスト(yahagigawa@uinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H27 川部会編 vol.6



発行日：平成 27 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 30 回川部会WGを開催しました！

11 月 11 日（水曜日）に第 30 回川部会WGを開催し、矢作古川分派施設と矢作古川頭首工の 2 ヶ所を見学しました。

日時：平成 27 年 11 月 11 日（木）13:30～16:00

場所：矢作古川分派施設
矢作古川頭首工

参加者：19 名（事務局含む）



◆主な活動内容

1 矢作古川分派施設（施工中）を見学し、構造についてお話をききました



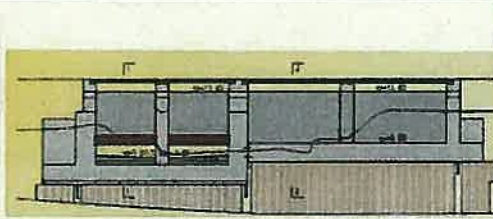
■矢作古川分派施設の目的と工事進捗状況

- H12年9月東海豪雨やH20年8月豪雨など過去の洪水時には、矢作古川流入支川で浸水被害が多発した。
- 過去の洪水実績を踏まえ矢作古川への合流支川の改修を行うため、適切に分派（計画分流量200m³/s）する施設として、矢作古川分派施設を整備している。
- 現在の工事状況は、分派施設本体のコンクリート打設は完了し、水路や護岸の工事が主体となっている。



■矢作古川分派施設の構造について

- ゲート下のコンクリート底盤にパイプが通っており、流量の少ない時や伏流水を下流に流す構造になっている。底盤は中心に向かって斜めになっており（比高差40cm程度）、常に水深が確保できる構造となっている。
- 工事による埋め立てを実施するにあたって仮水路を造った。仮水路の通水前と使用後の埋立時には、市民との協働で、かいぼり調査を実施した。河道内に生息していた淡水魚や水生生物は捕獲し下流へリリースした。準絶滅危惧種のシロネ群落については適切な場所に移植した。
- 仮水路は1年半ほど使用していたが、貴重種やスジシマドジョウ、イシガメ、カニ、タイワンシジミなど短期間に多種多様な生物が生息していた。
- 構造物の施工前には腐植土層の地盤改良を実施した。
- 工場団地からの雨水の排水施設は、工場への埃の侵入を防ぐなどの環境上の観点や景観を守るため、推進工法で進めている。



(・質問 ▶回答)

豊橋河川事務所より、矢作古川分派施設の整備目的・構造・工事状況について説明がありました。この内容について、意見交換を行いました。

- ・ブロックの下に隙間があるのではなく、パイプがあるのか。
 - ▶ パイプが通っている。護床ブロックの下は、水出し防止剤で処理されている。
- ・護床ブロックの高さは、元河床と同程度か。
 - ▶ そうである。基本的には海拔 3.8m 程度としている。
- ・ゲートは流量で調節するのか。
 - ▶ 機械操作による調節はしない。現時点では、整備計画規模 1/50 を対象に施工しているが、将来的に基本方針規模 1/150 の整備を実施する際には河床をさらに掘削する必要がある。その際にゲートを下ろし流量を調整する機能を持たせている。
- ・東海豪雨実績をみると分派推定量としては 590m³/s の流下能力は持っているようだ。なぜ 200m³/s とするのか。
 - ▶ 過去の実績から広田川、安藤川等の支川での氾濫を防止するため、支川改修後の流入を考慮して 200m³/s と設定している。
- ・東海豪雨時の流量はどの程度だったのか。
 - ▶ 流量は 4,500m³/s、分派 600m³/s 程度である。
 - ▶ 豪雨は上流のみで下流ではそれほど大きな降雨は無かった。
- ・流量はどのようにチェックしているのか。
 - ▶ 下流に県の観測点(小島橋)がある。本川との水位差についての観測点も今後設定する予定である。
- ・管理はすべて国土交通省となるのか。
 - ▶ 施工区域はすべて県管理区間であるが、協定により施設本体と護床工までを直轄管理とし、下流の護岸は愛知県の管理としている。
- ・護床工の境にある板を設置している目的は何か。
 - ▶ 護床ブロックの上に水が流れない場合の水位を想定して設置している。
- ・天端の高さは堤防や橋と同じか。
 - ▶ 同じ高さにしている。現状では、天端は管理用通路として整備している。
- ・仮水路にはカワヒバリガイはいたか。
 - ▶ カワヒバリガイなど外来種はみられなかった。
- ・地盤改良時には、杭は使用しなかったのか。
 - ▶ 改良の必要な範囲の凹凸が大きいため、杭ではなくエコポラム工法で固めながら土壌改良していく方法を取った。N値が 30 以下の範囲については、すべて地盤改良している。
- ・高水敷程度まで水がくるのは、年に何回程度あるのか。
 - ▶ 3~5年に1回程度である。



2. 矢作古川頭首工(魚道設置予定地)を見学しました



■ 矢作古川頭首工周辺について

- 現状ではアユ等の遡上が難しく、魚道工事を実施中である。工事の詳細説明は来年度早々を予定している。
- 広田川にもカワヒバリガイが生息していた。



今後の流域圏懇談会の予定



■ 第31回川部会WG(木川モデル)

日時：平成27年12月18日(金) 13:30~16:00 場所：豊田市職員会館2階第1会議室

内容：白浜地区調査結果の報告について

豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会の報告



◆ お問合せ ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 条、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

* 矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

未定稿

H27 川部会編 vol. 7



発行日：平成 28 年 1 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第31回川部会WGを開催しました！

12月18日（金曜日）に第31川部会WGが豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、今年度の白浜地区モニタリング調査結果と豊田市矢作川河川環境活性化プランについて説明していただき、意見交換を行いました。

日 時：平成 27 年 12 月 18 日（月）13:30～16:00

会議場所：豊田市職員会館 2F 第1会議室

参加者：20名（事務局含む）



◆主な意見交換内容

1 本日の話し合いでわかったこと

■白浜地区モニタリング調査結果について

- 大同大学鷲見研究室の皆様より、今年度の白浜地区モニタリング成果について報告いただきました。
- 白浜工区は2014年時点では植生が少なくほとんどが裸地でしたが、2015年現在ではヤナギが多く繁茂しており、2014年5月～9月の約4か月でヤナギの高さは50～100cm程度成長しています。下流側のワンドに沿った列状のヤナギ群落は、2012年～2013年に種子が水際に漂着し列状に生育したものの、2013年の出水により一旦土砂で埋まった群落であると推測されます。
- ワンド周辺では基本的に砂（2～0.075mm）が多く、特に堤防側でその傾向が強く表れています。今年度の出水はそれほど大きくなかったため、人工掘削後のワンド内にはやや砂が堆積する程度の変化となっています。一部のヤナギ群落が土砂を捕捉する傾向がみられるため、今後も引き続き観測を行います。
- ワンド上流の湧水は、加茂川から流入していることがわかりました。湧水が多い日には1日程度でワンド内の水が入れ替わっていることがわかりました。湧水の多少と水温との関係は明確には確認できませんでした。
- 白浜工区周辺の縦断的な水位の変動状況を確認したところ、下記の4点が把握できました。今後は、iRICにより縦断水面形の挙動を再現し、工区周辺の土砂の動きなどモニタリング結果との関係を把握していく予定です。
 - ・下流境界条件である頭首工は、取水位一定運用。
 - ・平水時の水面形は、39.2kの勾配転換点より下流湛水区間に入るとほぼフラット。
 - ・高水時の水面形は、39.2k付近で屈曲する。上流瀬淵区間は通常の変動。下流湛水区間は水面勾配が発生。
 - ・水位変動幅は、観測上流端から下流端に向かって圧縮される。



■豊田市矢作川河川環境活性化プランについて

- 本プランは、有識者、河川管理者、利水団体等の組織する委員会により検討されており、家下川の合流地点から矢作ダムまでの範囲を5つの検討区間に分類し、①自然環境、②街づくり、③流域管理、④人の利活用の4つの視点からプランを提案するものです。
- 現在は、これまでに検討された内容について、シンポジウム（11/29に開催）参加者及び豊田市住民へのアンケートを実施し意見聴取している段階です。
- 今後は、収集した市民意見を反映するとともに委員会において再度検討・整理を行い、平成28年3月末にプランの策定を予定しています。

■今後のスケジュールについて

- 次回地域部会（川部会）は、1月18日（月）13:30より実施します。

2 意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 白浜地区モニタリング調査結果について

(・意見 ▶回答)

白浜地区モニタリング調査結果について大同大学鷺見先生および吉川さんより報告があり、意見交換を行いました。

- ・白浜工区の勾配変化の原因は何か。洗掘傾向はこれからも続くと思うが、もっと洗掘傾向を減らそうとする場合、ワンドを広げて上下流繋げてしまうと負荷が減るのではないか。(山本)
- ▶ 勾配変化はカーブと元の川幅が原因であると考えられる。現状では、土砂の堆積・洗掘の原因が不明なため、iRIC による計算を実施することにより出水時の土砂の動きを把握していく予定である。(鷺見)
- ・以前漁協の方と話したとき、久澄橋直下の瀬が近年なくなったと聞いた。(内田)
- ▶ 測量成果をみると瀬が下がっている状況はみとめられる。白浜工区により横断には広がっているため、大きい出水の時に下流に引っ張られる作用があるのではないかといい見方があるのは確かである。ただし、これは大きい出水の時の話である。(鷺見)
- ・裕さん達が今やっている区域を公園にしたい。夏に徹夜で魚釣り大会をやっている。それがうまくできるようになるのか。ワンド内には魚がいたり、いなかったりするの。(松井)
- ▶ いるときは大量にいるが、同じ時期でも魚の量に多寡がある。下流の堰はゲート操作されているので、水位変動は流量が増えなければ基本的に水位変動は無い。流量が増えても基本的な条件変化は無いはずなのに、魚の量に多寡があることが不思議である。そこはまだわからない。(鷺見)
- ・今後の課題の中で iRIC を使って河床変動のシミュレーションをしてみるということだった。この計画で、豊田市と連携を取って久澄橋直下の瀬に分散型落差工を入れて瀬を嵩上げした場合に河床変動がおこるか検討することはできるのか。(内田)
- ▶ 分散型落差工のスケールは非常に小さいと思う。この小さいスケールを今シミュレーションでやっているスケールの中に正確におさめることは難しい。(鷺見)
- ▶ 分散型落差工、いわゆる瀬の再生については橋梁管理者ができる部分の一部分で実施する予定である。河川改修による河道掘削にあわせて施工することになると思う。現時点ではやろうとしているのは一部である。(事務局)
- ・資料⑥⑦の出水ピーク 39.0k がわずかに盛り上がっているのはなぜか。(野田)
- ▶ 39.0k の下流で一度減くなる。39.0k のところは通りやすいが、その下流は通り難くなる。しかも横に湾曲しているため、一旦抵抗の大きい部分ができるからではないかと考えている。(鷺見)

(2) 豊田市矢作川河川環境活性化プランについて

豊田市矢作川河川環境活性化プランについて矢作川研究所早川所長および内田事務局長より説明があり、意見交換を行いました。

- ・先日のシンポジウムで豊田市では過去より気温が上がっていると聞いた。(松井)
- ▶ 今年の8月8日に気温調査を行った。一番高いところで37度あった。どちらかというと豊田市の南西部は高い。夏はフェーン現象が起る暖かい風が南西から吹き込むため、豊田市は南西から温まってくるのが分かった。(早川)
- ・川の高水敷の温度と堤防の上あるいは市街地側の温度を横断的に気温計測されている事例はあるのか。広大な高水敷のグラウンドが川風に対してどう機能しているのか事例があればいいと思った。(鷺見)
- ▶ 以前にそういう事に着目して気温測定したことはない。今後の課題としていきたい。(早川)
- ・人と生き物が共生する河畔という目標がとても難しいと思った。(本守)
- ・岡崎あたりの矢作川を見ていると、遊歩道やサイクリングロードは必要だと思うが、水辺の生き物は安心していられるところはない。あるときには人間は端っこを通り、人間に必要な部分と生き物に必要な部分はメリハリをつけて残す配慮が必要であると思う。(高橋)
- ▶ 川部会でそもそも久澄橋地区をモデル設定したのがそれだと思う。どこがそういった形に適しているのか広げて色々な所で見ていかないとけない。(光岡)
- ▶ 基本スタンスはどれも同じにするということではなく、生き物のために残す部分と人間が入りやすくする部分のメリハリをつける方針は再確認しようと思う。(内田)

(3) 振り返り

よかったと思うこと：白浜工区の調査結果がまとめて聞けた。/鷺見先生たちの成果が一役立った。/資料がA3版で(カラー)で見やすかった。/豊田市矢作川河川環境活性化プランが聞けてよかった。

よくなかったと思うこと：前回の矢作古川頭首工の訪問の反省会、討論会はなかった。/やや時間不足。

今後取り組んでいきたい活動など：県にも参加いただきたい。/矢作古川分派施設魚の選上が不可能かと思えるので、詳しい報告をお願いしたい。/活性化プランとの議論。

質問など：懇談会資料のHP掲載をお願いしたい。

今後の流域懇談会の予定

■第7回地域部会(川部会)

日時：平成28年1月18日(月)13:30~



◆お問合せ◆

矢作川流域懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ujnet.or.jp)までお送りください。





発行日：平成28年2月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第7回川の地域部会を開催しました！

1月18日（月曜日）に第7回川の地域部会が豊田市職員会館にて開催されました。今年度及び今期3ヶ年の川部会の活動成果報告と次年度以降の活動計画について話し合い、全体会議に諮る内容について確認しました。

日時：平成28年1月18日（月）13:30～16:00
会議場所：豊田市職員会館2F 第1会議室
参加者：19名（事務局含む）



◆主な意見交換内容

1. 本日の話し合いで決まったこと

■活動成果報告について

- 成果報告前段に各モデルの課題のポイントを記載します。
- 3ヶ年（平成25年度～平成27年度）の活動成果報告は、各モデルでできたこと、決定したことや良かったことをより詳細に記載します。
- 総合土砂流域管理検討委員会や豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会との連携も引き続き進めていきます。
- 次年度以降は必要に応じて再度ワークショップを実施します。
- 一般の方でもわかりやすい資料となるよう工夫します。
- 修正後の資料については、内田先生、鷲見先生に確認・承認いただき、全体会議に諮ります。

■今後の活動方針について

- 白浜工区周辺のモニタリングと併せて、工区周辺の生き物に関する調査状況も確認していきます。
- 保全エリアに関する検討は、既存の国交省資料や豊田市河川環境活性化プラン検討資料等を基礎資料として、話し合いを進めていきます。
- 関連する自治体（豊田市、岡崎市、安城市、碧南市、西尾市）における河川利用等に関する計画を確認し、可能であれば積極的な連携を進めていきます。
- 次年度以降のとりまとめでは、他地区、他支川での展開を見据えた整理を進めていきます。
- 修正後の資料については、内田先生、鷲見先生に確認・承認いただき、全体会議に諮ります。



2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 活動成果報告について

(・意見 ▶回答)

全体会議資料案のうち活動成果報告について事務局より説明があり、意見交換を行いました。

- ・豊田市河川環境活性化プランについては、我々が検討する全ての課題と関係があるので1項目おこしていただきたい。また、家下川の生き物の棲みかという言葉は、今回の成果に対して少し大仰ではないか。(本守)
- ▶ 昨年までにまとめられた各モデルの課題のポイントに沿って記載している。資料の前段に課題のポイント一覧を追加する。(事務局)
- ・今期3ヶ年の成果をもう少し詳細に記載いただきたい。順序も上に持ってきていただきたい。(内田)
- ▶ 特に家下川モデルについては、豊田市河川課や豊田加茂建設事務所、国交省、土地改良区が互い情報を出し合って検討して進めてきた。そういった評価を含めたまとめがあった方がよい。(内田)
- ▶ 何がどれに結びついて検討していったということが分かりにくいので、目標に沿って分類できるとよい。こんな結果が出てこうなった、こういった方向が決定した、といった内容がもっと出せるとよい。(光岡)
- ・こういったプロセスを経て解決に向かったのかということが一般の方にもわかるような資料にしてほしい。可能であれば、内部向けと外部向けの2種類あるとよい。(山本)
- ・実際の矢作川の工事について、3ヶ年でどういった議論をしたかについても記載が必要である。(本守)
- ▶ 一番大きかったのは樹木の伐開の件と巴川合流点の改修工事である。家下川の合流点の件もある。(内田)
- ・今後の総合土砂管理委員会や豊田市河川環境活性化プランとの連携を進めていく必要がある。(内田)
- ▶ 他の関係自治体についても河川環境整備や河川利用等に関する計画があるか確認し、積極的に関わっていくのも良いのではないかと。(本守)
- ▶ 岡崎市には豊田市のような計画をつくる話は無いが、リバーフロントという考え方については現在検討中である。(三宅)
- ▶ 岡崎市、安城市でサイクリングロードをつなげるような話も出ている。(伊奈)
- ・この懇談会には、多様な立場の人たちが集まっている。その中でざっくばらんに個人的な内容から専門的な知見まで色々なものを出しあって混ざり合うこと必要である。(浅田)
- ▶ グループごとに机を囲んで意見や気づきを書いた付箋を貼っていくワークショップを以前のWGでは実施していた。これまでの成果や皆さんの考えをもう一度整理するため、次年度でもう一度取り入れてはどうか。(内田)
- ▶ 以前のワークショップでは、家下川モデルや本川モデル、加茂川の水門などの話が出て、それについて細かく検討しようとなった。もう一度ワークショップで再検討していくことによって、もうワンランク上の検討ができるのかなと思う。(松井)

(2) 今後の活動方針について

全体会議資料案のうち今後の活動方針について事務局より説明があり、意見交換を行いました。

- ・生き物の多様性をテーマとしているため、白浜工区周辺の検討では生き物との相互関係についても調査する必要があるのではないかと。(野田)
- ▶ アユについては漁協で調査されている。他に多いのはオイカワとカワマスではないか。(光岡)
- ▶ 阿部さんが中心となって年に1回魚釣り大会が実施されている。(松井)
- ▶ 懇談会での調査はなかなか難しい。既存調査結果を確認するとともに、矢作川研究所さんにぜひ調査を検討いただきたい。(内田)
- ・保全エリアマップについては豊田市河川環境活性化プラン等での検討と重複するため、既存資料を見て我々の意見をまとめてはどうか。(内田)
- ・家下川モデルについては、阿部さんの意見を含めて検討する必要がある。(内田)
- ▶ 家下川の生き物マップは阿部さんの知識をいただければ、作成できるのではないかと。(伊奈)

(3) 振り返り

よかったと思うこと:「川部会」の目的、価値に関心を深めた。/「やる事、やれる事」の整理整頓の努力が見えた。/本川モデル、家下川モデル、地先モデルについて一応まとまったと思います。

よくなかったと思うこと:参加メンバーが少なかった。/3ヶ年の復習をしてくるとよかった。

今後取り組んでいきたい活動など:本川モデルに関する活動/矢作川の各ポイント(ターゲット)を定め、リアリティを高める。/出席者を増やすにはどうしたら良いか考えて、行う?

質問など:各年度及び3年間の目的があるけど、目標(値)がない。または長期継続的に観る指標(理想形目的につながる定量的な指標)による定点点計測ができるとよい。/継続(現地検討)

今後の流域圏懇談会の予定



- 第7回市民会議 日程が決まり次第、MLにてご連絡いたします。
- 第5回全体会議 平成28年2月22日(月)14:00~



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H27 市民会議編 vol.1



発行日：平成28年2月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆矢作川流域圏懇談会第7回市民会議を開催しました！

2月9日（火曜日）に第7回市民会議が豊田市職員会館にて開催されました。今回の会議では、これまでの各部会の活動実績、流域連携テーマの活動実績と今後の活動方針について、活発な意見交換を行いました。

日時：平成28年2月9日（火）18:00～20:00
会議場所：豊田市職員会館2F 第1会議室
参加者：15名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山・川・海部会の取組み状況報告



■山部会

- 山村再生担い手づくり事例集
 - ・3ヶ年で計64団体を山・川・海部会メンバーが取材し、事例集Ⅰ,Ⅱ,Ⅲとしてとりまとめた。
- 山村ミーティング
 - ・当初目的としていた、きこり祭りに変わるイベントの開催を模索している。
- 森づくりガイドライン
 - ・流域の自治体から森づくりに関する情報収集を行い、共有と意見交換を行った。
- 木づかいガイドライン
 - ・根羽村森林組合がまとめ役となって木づかいライブ・スギガラキャラバンを展開した。

■川部会

- 本川モデル
 - ・護岸の建設や修復工事では、WGの意見が反映され、環境負荷の低減が実現した。
- 家下川モデル
 - ・WGが主導して、家下川に生育する生き物に配慮した改修工事計画を促すことができた。
- 地先モデル
 - ・活動団体にヒアリングとアンケートを行い、専門家リスト（案）を作成した。

■海部会

- ごみ・流木の問題
 - ・山、川部会メンバーが参画し、ごみ・流木調査を実施した。
- 豊かな海の生物調査
 - ・干潟や海底の生き物調査を行い、環境における課題について意見交換を行った。
- 海と人の絆再生
 - ・アンケートを通じて、子どもや保護者の海に対する意識を把握した。
- 干潟・ヨシ原再生
 - ・矢作ダムの砂を活用した干潟造成の試験を実施し、アサリの生息を確認した。



2. 流域連携テーマの進捗状況と今後の活動方針について



■流域連携テーマの進捗状況

- ごみ・流木の問題
 - ・トンボロ干潟や吉良町沖で漂着ごみや海底ごみを把握した。
- 土砂の問題
 - ・矢作ダムの堆積砂を海へ運ぶ「砂の駅」プランについて、実施主体、運搬方法、取組み方法等を検討した。
- 木づかい
 - ・流域ものさしの製作において、流域材の確保と事例集で培われた人脈の活用が話し合われた。

■全体会議の進め方

- ・全体会議の話し合いのポイントについて意見交換を行った。

2.意見交換

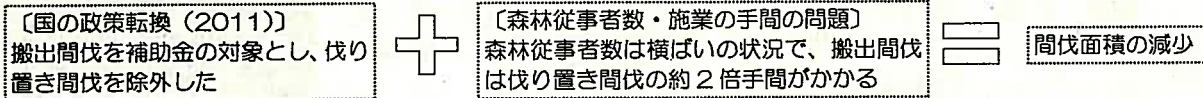


●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶回答)

(1) 山・川・海 of 取組み状況報告

- ・森づくりガイドラインの活動成果には流域市村の間伐面積の推移がある。2010年度以降の間伐面積の減少は何を意味するのか。間伐する対象地がなくなったということか。(光岡)
- ▶ 理由はいくつかあると思うが、最も大きな原因は国の政策転換だと考えられる。そのため、間伐面積の減少は、対象地が無くなったわけではない。(蔵治)



※ただし、県の森林環境税による補助金は、伐り置き間伐も対象となる。この補助金が間伐を支えている。

(2) 流域連携テーマの進捗状況と今後の活動方針について

- ・全体会議では、何をテーマとして議論するか。この流域連携テーマを議論の対象にするのか。(光岡)
- ▶ 矢作川流域圏懇談会は、全体の2/3が終わったわけで、海だけで山、川とつながるのは難しいと感じている。今後1/3は、各部会の活動を続けながら、部会を統合した活動が必要だと思う。設立して9年が近づいているので、まとめを意識した取り組みが必要だ。(高橋)
- ▶ 今年は山部会と海部会に参加して、私の所属する川部会とは違ったことが行われていると思った。現場をとらえて協議することは良いことだと感じた。川部会は、連携するまでの成果がみえていないのが現状だ。(野田)
- ・これが成果(途中段階を含めて)だということを各部会で明らかにしていくことが重要だ。それに加えて3つの部会合同で何かを作り出す仕組みを検討したい。この話し合いは、今度の全体会議が必要だと思う。(光岡)
- ・この懇談会はたくさんの引き出しができていて、国や市などの行政機関と市民団体がうまくいっているのは、全国的にみても矢作川だけだと思っている。特に山部会に関しては、木の駅プロジェクトや森の健康診断など、全国に胸を張れる内容がたくさんできあがっている。今後は、これらの情報を全員が共有して、全国にPRできればよいと思う。(高橋)
- ・川部会では目玉というものができていない。各テーマが広がりすぎて、どうまとめて良いか分からなくなっている。(菅原)
- ・やはり6年間の積み重ねというのはすごいものだと思う。6年前は右も左も分からず、勝手なことを言い合っていたのに、今では、ここまで辿り着いている。今後は、山と川と海をつなぐ1つのキーワードが必要だと強く思う。(黒田)
- ・川部会しか参加していないので、他の部会にも参加してみたいと思う。(吉川・大濱)
- ・ここまで全体会議の議題について、皆様のご意見をお聞きした。ここで学識者の蔵治先生にもご意見を伺いたい。
- ▶ 今日の話合いを聞いてみると、流域圏懇談会が危機的な状況であるという印象を受けた。これまでの6年間には2年目に懇談会崩壊の危機があった。その時は、流域全体を山から海まで見るという2日間のバスツアーを行い、懇親を深め持ち直した。あれ以来、山部会は現場主義を重視してきた。この流域圏懇談会のメインは川部会だと思っている。川部会を盛り上げるために、山部会も海部会も一緒に考える必要がある。とにかく楽しくないと続かないというのが結論だ。(蔵治)
- ▶ 国においては、国土強靱化計画とは別に、国土形成計画と国土利用計画が次々と作られていて、その中には国土強靱化はいつか破たんすることが明記され、生態系の恵みに依存したしなやかな流域圏やグリーンインフラストラクチャー等のキーワードが並んでいる。この先、どこかで方向転換が生じた時に、我々が最先端に躍り出ると思う。現段階では、PR不足は否めない。今後は年1回イベントを開催し、それをモチベーションにして次に進むサイクルが必要だ。(蔵治)
- ・流域圏懇談会は市民が主体だと宣言したのが、2年目の全体会議であった。その後、一時期市民はとても元気であったが、今は元気が感じられない。市民の力なしでは流域圏を変えることは不可能だと思う。事務局には、どのようにしたら流域圏懇談会に市民が戻ってくるのかについて真剣に考えていただきたい。(黒田)

(3) 振り返り

- よかったと思うこと:** 多くの資料と意見交換になる材料が揃えられていたこと。/参加者に公平に意見を求めたこと。/蔵治先生が資料の内容や市民会議の経緯を詳しく説明してくれたこと。
- よくなかったと思うこと:** 市民の参加者が少なく、過去に発言が多かった人の参加がなかったこと。
- 全体会議に向けた提案:** 事前に参加者に対して資料を送信し、あらかじめ内容の理解と意見交換を想定した準備を促す。
- 質問など:** 木づかいの中で、今後の活動方針(案)に示された道具(ものさし)をより詳しく紹介いただけるとありがたい。

今後の流域圏懇談会の予定

■第5回全体会議

日時: 平成28年2月22日(月) 14:00~16:00



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
 TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

全体会議 vol. 1



発行日：平成 28 年 3 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 5 回全体会議を開催しました！

2月22日（月曜日）に矢作川流域圏懇談会第5回全体会議を開催しました。本年は流域圏懇談会の2ステージ目のまとめの年であり、平成25～27年までの進捗状況の確認と3ステージ目の活動方針の意見交換を行いました。

日 時：平成 28 年 2 月 22 日（月）14:00～16:00
会議場所：豊田商工会議所 2F 多目的ホール 201～203
参加者：76名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 確認事項（H25～27の運営方針、各部会の活動進捗、流域連携テーマに関する成果）



■H25～27の運営方針

1年ごとに「企画・調整」「検討・実施」「とりまとめ・報告」の3段階で運営している。その中で、「部会別のWG」にて個別の課題の検討している。また、流域圏一体化に関わる内容については、「市民企画会議」「勉強会」「市民会議」で議論された。

■各部会の活動進捗

●山部会

「山村再生担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つのテーマを恵那、根羽、豊田、岡崎、西尾の5つの地域で議論した。また、先進事例を視察する勉強会を長野県（荒山林業）等で実施した。

●川部会

「本川モデル」「家下川モデル」「地先モデル」の3つのテーマを数回ずつに分けて議論した。また、現状の把握と先進事例を学ぶため、現地視察（小炭ダム土砂バイパストンネル）を行った。

●海部会

「ごみ・流木の問題」「豊かな海の生物調査」「海と人の絆再生」「干潟・ヨシ原再生」の4つのテーマについて議論した。平成27年度は山部会と合同部会を行い、山と海に係わる様々な観点から活発な意見交換を行った。

■流域連携テーマに関する成果（市民会議で確認）

「ごみ・流木」については、トンボロ干潟での漂着状況の確認等、「土砂」については、ダムの砂を海へ運ぶイベントの検討、「木づかい」については、流域ものさしの製作提案等、問題解決に向けた活動が行われている。

2. 協議事項（今後の運営方針と各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針、河川整備計画フォローアップについて）



■今後の運営方針と各部会の今後の活動方針

●今後の運営方針

- ・昨年度までの前期3ヶ年の運営方針を基本的に踏襲した上で、以下の4つを柱にしたいと考えている。
- (1) 各部会の活動成果の見える化 (2) 山・川・海のメンバーの相互理解の促進
- (3) 流域連携テーマ検討の具体化 (4) 河川整備計画のフォローアップの改善

●山部会の活動方針

・今後も4つのテーマを継承しながら、よりPR力のある情報発信、活動により築かれた人間関係を活用したイベントの開催、矢作川の水源かん養機能に配慮した森づくりの発信、木づかいガイドラインの流域内での水平展開を目標とする。

●川部会の活動方針

・今後も3つのテーマを継承しながら、これまでの蓄積をモデル化した情報共有・情報発信、継続的なモニタリングと順応的管理の実践、関係する委員会、自治体、団体との積極的な連携を目標とする。

●海部会の活動方針

・今後も4つのテーマを継承しながら、山や川との合同部会の設置と部会員同士の交流強化、矢作川を対象とした団体、個人への本懇談会活動への参加促進、活動拠点づくりを目標とする。

■流域連携テーマに関する活動方針

・「ごみ・流木」では、ごみマップの活用、「土砂」では、砂の駅等のイベントの検討、「木づかい」では、流域ものさしの製作等を具体的な目標とする。

■河川整備計画フォローアップについて

- ・河川整備計画の中で、以下の項目で矢作川流域圏懇談会が関わってきた。今後も、情報の提供や共有を図りながら進めていきたい。
- (1) 治水（現地での意見交換や見学） (2) 環境（勉強会・現地でのヨシ植え等） (3) 土砂管理（勉強会等）



◆話し合いでの主な意見

(◎意見 ▶回答)

1. 確認事項 (H25~27の運営方針、各部会の活動進捗、流域連携テーマに関する成果)

■各部会の活動進捗

- 山部会は、昨年度と比べて、ほぼ同レベルあるいはそれ以上に活動ができたと思う。特に、9月には東幡豆で海部会との合同会議を開催することができたことで、矢作川流域圏の一体化に向けた大きな一歩ではないかと思う。また、有志によって森づくりや木づかいの先進事例を学ぶといった試みも初めて行った。(蔵治)
- 川部会は、家下川モデルにおいて、国と県と市の管理が複雑に入り組んでいる場所において管理者の整理を行い、各管理者に懇談会への出席を促した。矢作川流域圏懇談会がそのような場の提供を行えたことが、非常に良い進捗であったと思う。(内田)
- 海部会は、矢作ダムの砂を港湾部局のご協力を得て、トンボロ干潟周辺に干潟を造成したことが成果だ。その後、ここをフィールドにして、生き物の観察を行った。また、山部会との合同部会では、山の砂を海まで運ぶという砂の駅という提案があり、市民の意識改革やPRの方法を議論した。(青木)
- 3つの部会がどれもよく進捗している。特に、管理の違う行政の協働に結び付けられたことは、河川整備計画策定時からの課題に対応するものであり、一つの成果であると思う。また、市民を巻き込んで流域の問題を認識していく活動ができたという意見があり、これも一つの成果であると思う。(辻本)

■流域連携テーマに関する成果

- 山村再生担い手づくり事例集について、今年で3冊目となりますが、今年度は全体会議に間に合った。是非読んでもらいたいというお願いに加え、取材を行ったメンバーが山、川、海の境界を越えて、流域全体でのネットワーク化を図っていければよいと願っている。(蔵治)
- 今までの成果で、流域圏の人々との横のつながりができている。このつながりを活用したイベントなどで、流域圏懇談会をPRし、外に発信していきたい。(高橋)
- 水は高い所から低い所へ流れるものであり止むを得ないが、海はその受け皿ではない。この流域圏懇談会は、立場の違いを話し合う機会を与えられたのだと思う。そのため、山・川・海の連携は密にすべきである。(石川)

2. 協議事項 (今後の運営方針と各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針、河川整備計画フォローアップについて)

■今後の運営方針と各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針

- 今回の資料に示された、懇談会の運営方針の図(懇談会の役割イメージ図)について、当初示された9年以降も続く図に差し替えるべきである。(蔵治)
- 山部会だけで完結して満足するのではなく、川部会や海部会の方々と連携しながら、時には街や海に出ていくことも含め、様々な取り組みたいと思う。(蔵治)
- 川部会では、メインとなるべき本川モデルの成果が出ていない。今後3年間で成果を出す必要があるため、山部会や海部会の方々にも協力をいただきながら進めていきたい。(内田)
- 海部会はメンバーが少ないことに加え、山と川の両方の影響を受ける点から、他部会と連携して何かしたいという意識が高い。また、市民を巻き込んだ干潟の調査を行うなど、なるべくフィールドに出て、活動の範囲を広げていきたい(青木)
- 皆さんの覚悟としては、一つのステージが終わり、実行のステージにステージアップするということを認識することだ。それから、川部会では、本川モデルの成果が出ていないという意見があったが、これは、河川整備計画に相当する根幹が不足することであり、行政や河川の専門家は、情報を整理して対応する必要がある。(辻本)

■河川整備計画フォローアップについて

- 河川整備計画の多くの部分で、この流域圏懇談会が期待されていると感じた。川部会の本川モデルについて、山部会や海部会が関われる余地について教えていただきたい。(蔵治)
 - 山の管理や砂防施設の配置条件は、本川モデル区間の土砂運搬に十分関係するし、河川区間の整備をどのようにしてゆくのかという議論は、海までどれほどの土砂が到達するかに関わってくる。(内田)
- 今後3年間で土砂の議論を川部会と一緒にしたいと思う。(蔵治)

■全体

- 根羽、恵那、旭、豊田、岡崎、西尾の持ち回りで流域博覧会というようなイベントをやってはどうか。(丹羽)
 - 全国的にみても、流域圏ネットワークとか懇談会がうまく回っているところは、よいイベントが開催されているところだと思われる。(辻本)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。